

# 経済・金融フラッシュ

No.07-110 2007/11/29

## 鉱工業生産 07年10月～電子部品・デバイスの在庫調整終了

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

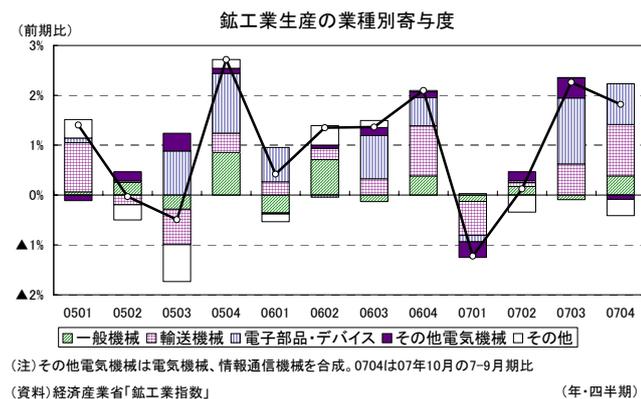
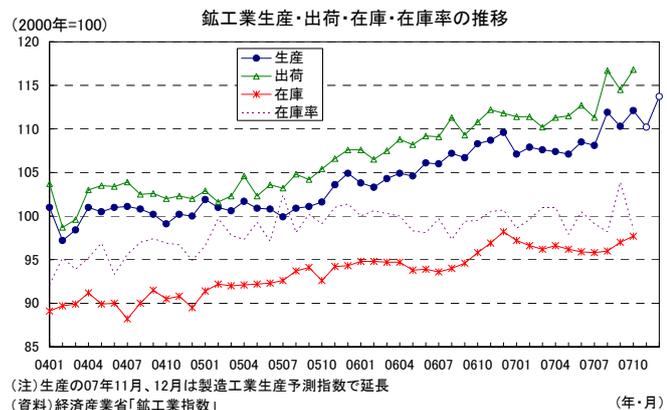
### 1. 生産指数は2ヵ月ぶりの上昇

経済産業省が11月29日に公表した鉱工業指数によると、10月の鉱工業生産指数は前月比1.6%と2ヵ月ぶりの上昇となり、ほぼ事前の市場予想（ロイター集計：前月比1.7%、当社予想は0.9%）通りの結果となった。出荷指数は、前月比2.1%と2ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比0.6%と3ヵ月連続の上昇となった。

10月の生産を業種別に見ると、輸出の好調を反映して、一般機械（前月比7.0%）、輸送機械（前月比5.1%）が大幅に上昇したほか、在庫調整がほぼ終了したと見られる電子部品・デバイス（同2.6%）が5ヵ月連続の上昇となった。

一方、建築基準法改正に伴う建築着工の落ち込みの影響から、窯業・土石（建設財のウェイト：60%）は前月比▲2.3%と4ヵ月連続の低下となった。

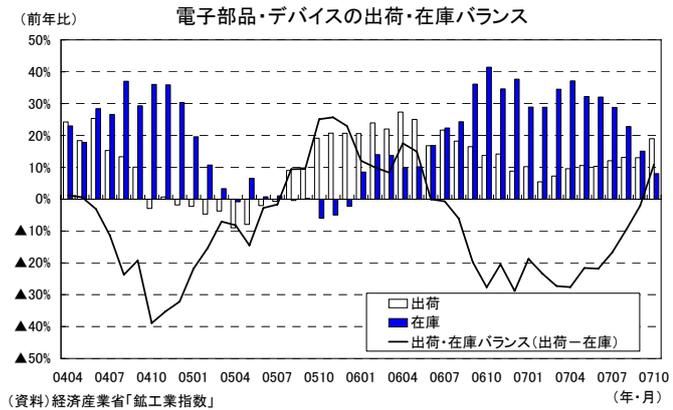
速報段階で公表される16業種中、10業種が上昇、6業種が低下となった。



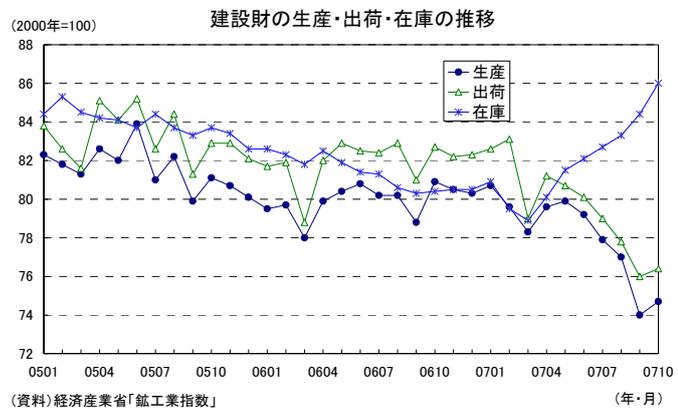
### 2. 電子部品・デバイスの在庫調整は終了

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比▲3.5%と3ヵ月連続の低下となり、前年比でも8.0%と積み上がり幅が大きく縮小した（9月：同15.1%）。出荷は前月比0.4%の上昇、前

年比では 19.0%の上昇（9 月：同 13.0%）となり、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は+11.0%と、9 月の▲2.1%から大幅に改善し、06 年 5 月以来ほぼ 1 年半ぶりに出荷の伸びが在庫の伸びを上回った。電子部品・デバイスの在庫調整はほぼ終了したと見てよいだろう。



一方、建築基準法改正に伴う建築着工の落ち込みは企業の生産活動にも影を落としていく。建設財の生産活動は、公共投資削減の影響で長期にわたり停滞してきたが、このところ生産、出荷の落ち込み、在庫の積み上がりが鮮明となっている。



10 月は、生産、出荷ともに若干持ち直したものの、在庫は 7 ヶ月連続で増加しており、建設財の出荷・在庫バランスは大きく悪化している。建設財の在庫調整は今後本格化する可能性が高い。

製造工業生産予測指数は、11 月が前月比▲1.7%、12 月が同 3.2%となった。10 月の生産指数と 11、12 月の予測指数をもとに計算すると、10-12 月期の生産指数は前期比 1.7%の上昇となる。最近の鉱工業生産の実績値は予測指数の伸びを下回る傾向が続いていることを割り引いて見る必要はあるが、10-12 月期の生産指数が 3 四半期連続の上昇となる可能性は高いと考えられる。

ただし、建築基準法改正に伴う建築着工の落ち込みを反映して建設財では在庫調整圧力が高まっている。建設財の生産が鉱工業全体に占める割合は 8.2%とそれほど大きくないが、建設財の落ち込みが長期化すれば鉱工業全体へ波及するリスクがあることには留意が必要だろう。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)